

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873200806
法人名	社会福祉法人 藤寿会
事業所名	グループホーム 瑞鳳荘
所在地	愛媛県今治市玉川町畑寺甲 1 5 - 5 (電話) 0898-55-2011
管理者	渡部 賢之
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 21 年 1 月 16 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 9 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 25 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 30 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	16 人
常勤	12 人
非常勤	4 人
常勤換算	16 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	24, 000	円	その他の経費（月額）	18, 000	円	
敷金	有（ ）円 ○ 無					
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ ）円 ○ 無		有りの場合 償却の有無			
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		1, 000	円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 25 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護 1	名	要介護 2	5 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	名	要支援 2	名		
年齢	平均 87.4 歳	最低 77 歳	最高 96 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

里山に囲まれ、川のせせらぎが聞こえるのどかな場所に、同法人の老人介護施設に隣接して建つホームである。付近に住宅は少ないが、利用者も職員も地元の住民が多いため、町民運動会や文化祭、夏祭りなどは季節行事として生活の中に取り込まれており、自然な近所付き合いができています。また、ホームのかかりつけ医も地域医療に力を入れているため、ほとんどの利用者が在宅で生活していた時からかかりつけ医として受診していた関係にあり、安心できる医療体制が構築されている。職員から「利用者は、私の小さな頃のことも知っている」という話が聞けるなど、顔馴染みの関係の中で共同生活をしている、地域に根付いたホームである。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

預かり金については、家族に報告書を送付していたが、来訪時にも説明ができるように、事務所にも同じものを準備している。運営推進会議は回数を増やし、規定通りに開催している。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

今回の自己評価には、管理者が記入してから職員に確認を取る手法で取り組んでいる。職員が取り組んでも評価内容は同じであると言うが、職員と管理者では文章表現等のニュアンスが違ってくことも考えられる。自己評価はボトムアップに意義があるので、職員が各々の表現で自己評価に取り組むことを期待したい。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

会議ということで議題に苦慮している様子が資料からも読み取れ、また管理者の話からも形式に重きを置いている状況がうかがえる。そのため、利用者へのケアの質向上に直結する話題が少ない傾向にある。運営推進会議の目的は、利用者へのサービスの向上であるから、余り形式にとらわれず、肩の力を抜いた開催を期待したい。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

ホームでは、家族への連絡はできる限り直接会って行うよう取り組んでいる。多くの家族が近隣者であることもあり、良好なコミュニケーションが図られている。また、苦情に関しては運営法人と協力し、第三者機関を設置して家族が意見を表出できる取り組みを行っている。不満や苦情にも傾聴することを基本としており、家族が意見や苦情を切り出しやすい雰囲気づくりに配慮している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

利用者、職員とも地元の方が多く、地域との精神的な繋がりを感じ取ることができる。小・中学校との交流、文化活動などのイベント的な付き合いでも、利用者がお客さん扱いになっておらず、普段着での付き合いが感じられる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 瑞鳳荘

(ユニット名)

ずいほうそう1階

記入者(管理者)

氏 名

渡部賢之

評価完了日

平成 20 年 12 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 基本理念をもとに、環境と同様癒される空間づくりを心掛けている。 (外部評価) 市町村合併により市域には多くのグループホームがあるが、ホーム開設時には唯一であったため、「玉川町」という枠組みにこだわる思いが管理者や職員から感じられる。理念に地域という文字は見当たらないが、ホームの運営には地域が意識されており、理念が有効に活用されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行い、その時間を利用し、情報の共有や職員の意識統一を図るようにしている。 (外部評価) 管理者の人柄もあり、職員とはよく話し合っていることが、利用者に対する思いを管理者と職員が異口同音に説明する様子からもうかがえる。ケアなどで判断に迷ったら理念に立ち返ることも実践しており、理念の共有化がなされている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 各種団体の訪問は積極的に受け入れ、夏祭りなども地域住民参加型で行っている。		瑞鳳荘便りも制作しているが定期的な制作発送とはなっていない為、年4回程度は制作発送したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 天候の良い時には散歩や買い物に出かけるようにしている。最近では近所の方の訪問、面会、農家の方からの野菜の差し入れも多くなってきた。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 小・中学校の運動会や集会、町民運動会、文化祭等、できる限り参加している。 (外部評価) ホームは山間部に立地しており付近に住居は少なく、日常的に近所付き合いをしているとは言えないが、利用者、職員とも地元の住民が多く、地域との精神的な繋がりが感じ取ることができる。小・中学校との交流、文化活動などのイベント的な付き合いでも、利用者がお客さん扱いになっておらず、普段着での付き合いが感じられる。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 市町村合併に伴い、玉川町も今治市となったができる限り旧玉川町の住民の優先的な入居を心掛けている。また災害などの際には高齢者や住民の緊急避難場所としての役割もあると考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価も職員全員で行い、その意義、必要性を説明し、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。また、自己評価を行う事により、自分たちの介護等を見直し、再認識する良い機会となっている。 (外部評価) 今回の自己評価には、管理者が記入して職員に確認を取る手法で取り組んでいる。職員も同じ考えであると言うが、職員自らが考えることと管理者が表現する内容には微妙なニュアンスの相違があると思われるため、職員の自己評価が正確に現れているとまでは言えない。	※	自己評価はボトムアップすることに意義があり、またユニット毎でも表現は異なることが一般的であると考えられるため、時間をかけて職員が各々の言葉で表現しながら自己評価に取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は実施しているが、内容、回数共に不十分である。	※	定期的な実施と内容の充実に取り組みたい。
			(外部評価) 会議の開催ということで形式に重きを置いており、議題にも苦慮しているため、利用者のケアの質の向上に直結する話題が少なく、地域との交流を深めるための会議になっているとまでは言えない。	※	運営推進会議の目的の一つは、利用者へのサービスの向上であるため、あまり形式にとらわれず肩の力を抜いて柔軟に取り組むことを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今治市地域福祉活動計画玉川地区座談会等各種会議にはできる限り出席するようにしている。		
			(外部評価) 管理者は福祉の専門職として地域でのキャリアが長く、行政との公私の繋がりも持っているため、双方を活用しながら利用者のサービスの質の向上に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業、成年後見人制度の内容や必要性など、職員にも説明している		権利擁護事業活用者も1名おり、成年後見人制度への移行などについても、市役所担当職員、中央包括支援センター職員と何回か話し合いを持っている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより、虐待に発展する恐れのある入居者間のトラブルについても早期発見、対処できる様にしている。また外泊等での帰荘の際は、心身の状態の変化に特に注意するようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約は十分に時間を取り話し合うようにしている。また、個人情報利用についても説明し同意を得るようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設共に設置しており定期的に会議を実施している。また苦情処理委員会、窓口のことは契約時に説明している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 預かり金報告は毎月の利用料金請求時に書面にて行っており、同じ書面をもう一部用意しておき、ご家族（身元引受人）等の来荘時にもう1度説明し、署名捺印してもらっている。 (外部評価) 家族に金銭出納帳やホーム便りなどを定期的に送付し、利用者の日常を報告しているが、より詳細な情報を伝えるため、家族と直接話すことに力を入れている。多くの家族が近隣在住であるため来訪も頻繁にあり、話す機会も多いので、良好なコミュニケーションが取れている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設共に設置しており定期的に会議を実施している。また苦情処理委員会、窓口のことは契約時に説明している。運営推進会議構成員にも家族代表者2名おり、意見を聞く機会を多く持っている。 (外部評価) 運営法と協力して第三者機関を設置し、家族が意見や苦情等を表出できるよう取り組んでいる。不満や苦情は傾聴することを基本としており、家族の来訪時には、管理者やケアマネジャーが、意見や苦情を切り出しやすい雰囲気づくりにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にケア会議を行い、その時間を利用し、情報の共有や職員の意識統一を図るようにし、また同時に職員の意見や提案も聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 7. 5時間の勤務時間の中、7種類の勤務体制をとり、利用者の生活時間帯に対応できるようにしている。	※	以前からの検討課題であった夜勤体制についてはユニットごとの夜勤者の配置に向けて調整中である。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 開所から現在までの移動、退職者数は8名であり、18年度以降は3名となっており、馴染みの関係が作られている。 (外部評価) 開設時からの職員も多く、異動や離職が少ないホームであるため、利用者との関係も良好で、落ち着いた生活を提供している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では、職員全員で考え実行していく事を基本にしており、管理者及び有資格者については各場面において、スーパーバイザーとなり、適確な判断、指導が出来るように努力している (外部評価) 職員は資格取得に積極的に取り組んでおり、向上心は高い。研修についてはホーム内や法人内での勉強会が中心で、外部研修も含めて受講機会が多いとは言えない。	※	資格の取得も積極的に実施させている。(19年度介護福祉士国家試験は3名が合格している。)また、介護職員の研修の参加を増やしていきたい。 利用者へのサービス向上のためにスキルアップしたいとの熱意が職員にあるので、内外の研修を受講できるような支援を期待したい。また、管理者のネットワークを活用して、ホーム内で専門的な研修を行うことも期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 施設外での研修にも積極的に参加させたいが、参加しやすい介護職員対象の研修があまりなく、施設内研修が主となっている。 (外部評価) 社協や管理者等のネットワークで福祉関連職種との交流などは行われているが、同業者とのネットワークが深まり、サービスの質の向上につながる取り組みがなされているとまでは言えない。	※	個々のホームの努力だけではネットワークの構築には限界があると思われるため、地域包括支援センターでの地域ケア会議等を通して、さらなるネットワークづくりが求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 施設外での研修にも積極的に参加させたいが、参加しやすい介護職員対象の研修があまりなく、施設内研修が主となっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 情報だけでなく、悩みやストレスも皆で共有し、個々の蓄積とならないように配慮すると共に会話や親睦の機会も定期的に作るようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。また、利用契約となる場合には、本人家族、の意向を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。また、利用契約となる場合には、本人家族、の意向を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。 (外部評価) ホームは地域を大切にしており、利用者だけでなく職員も町内出身者が多い。顔馴染みという関係が背景にある場合が多いので、利用者同士や職員と打ち解けるのに時間が掛からない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 職員は、利用者からの精神的な労いや優しい声かけを受け、ケアサービスは相互関係で成り立っていることを実感しており、仕事のやり甲斐を見出している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際、及び訪問にて入居者の近況を報告、また介護計画の説明をし、ご家族からの意見、要望を確認し反映するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居者の生活時間帯であれば特に面会時間を決めず何時でも来荘、面会、外出泊できるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身元引受人の同意を得て、家族以外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し良い仲間意識が生まれるよう配慮している。また、孤立しがちな入居者や、入居者間でトラブルが生じそうになった場合には、誤解やしこりが生じないように速やかに職員が介入するようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居される場合でも関係者とは、現在の生活状況その経緯等、書面も含め十分説明するようにしている。また退居後も入居者、家族が気軽に相談できる関係づくりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 管理者や職員は、利用者との日常の会話から人生の背景を知ろうとする姿勢があり、入浴や散歩時など一対一になれる機会を活用し、積極的に聞き取っている。しかし、把握した内容は、専用の記入用紙がないため情報が埋もれてしまい、職員間で共有化されていない場合もある。	※	利用者の生活歴やちょっとした雑談などからの情報も貴重な財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものである。統一された記録用紙に書き足して蓄積し、全職員で共有することを望みたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で出来る事を少しずつ増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケア会議を設けており、職員の意見交換、情報交換ができるようにしている。また、ケアチェック表を作成し家族と共にサービス計画書も確認できるようにまとめている。 (外部評価) 介護計画に基づき、職員全員で利用者全般のケアを行っている。計画は、計画作成担当者がまとめたものを、全員で話し合って作成している。	※	職員のスキルアップのためには、介護計画やモニタリングについて責任を分担することも必要と考えられるため、利用者担当制なども一つの方法として、職員主体のチーム運営を考慮することを望みたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 適時モニタリングを行い、再アセスメントし、必要時には、家族、医師を交えてのカンファレンスを実施し介護計画の変更も行うようにしている。 (外部評価) 介護計画は、実施についての評価票を基に検討している。また、急変等があった場合はその都度見直している。内容の継続や見直しについては、日々のモニタリングを基に検討しているが、評価票は介護計画の内容を大まかに区分しており、利用者個別の具体的な評価になっているとまでは言えない。	※	介護計画は細かく規定され、項目也多岐に渡っているため、日常の業務の中で全てを評価することは難しい面がある。目標の実施に優先順位を付けたり、類似の項目をまとめるなどの検討を望みたい。また、データとして活用するためにも、介護日誌を時間軸に沿った記録に移行するなどの取り組みも期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のフェイス記録には些細な事まで記録する様にし、また申し送りノートを作成し職員個人個人がチェックするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入居者の生活時間帯であれば特に面会時間を決めず何時でも来荘、面会、外出泊できるようにしている。 (外部評価) 運営法人の施設とイベントなどを共同で行うことができ、利用者の生活に彩りを添えるとともに、地域と一体化することも可能となっている。管理者は専任であるため、利用者と家族や地域と繋ぐための雑多ではあるが重要な事柄に丁寧に対応しており、細やかな配慮により利用者へのサービス向上に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 母体施設はもとより駐在所、市役所にも入居者名簿を提出し協力を要請している。火災の際の避難誘導等についても、地元消防団に出席してもらい年1回訓練を実施している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者の入退居時だけでなく普段から、他施設、支援センター、居宅介護支援事業所とは連絡を密に行うようにしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護事業活用者も1名おり、成年後見人制度への移行などについても、市役所担当職員、包括支援センター職員と何回か話し合いを持っている。また、虐待や困難事例に発展する恐れが見受けられた場合には出来るだけ早急に、市役所包括支援センターに報告、相談するようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察を受けるように心掛けている。 (外部評価) 地域で唯一の医療機関である民間の診療所が、地域のかかりつけ医として定着しているため、全ての利用者のかかりつけ医となっており、医療とは連携が密に取れる安心感がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 以前からの主治医がいる場合にはその病院を継続して受診し、症状に応じて心療内科、精神科の受診も行い指導を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員も2名配置し、また各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察を受けるように心掛けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入居者が入院した場合でも面会、様子観察を頻回に行うようにし、適時家族、医師との話し合いも行うようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 特変があれば都度家族に連絡し、早めに病院受診を行うようにしている。また場合に応じて医師を交えたカンファレンスを行うようにしている。 (外部評価) ホームでは、医療的行為は行わない、口腔からの栄養摂取が基本であるなどの基準を設けており、家族とは入居時に十分に話し合う時間を確保している。かかりつけ医とは、家族を交えてホームでの生活の可否について相談を行うシステムがあり、職員とも共有化が図られている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 特変があれば都度家族に連絡し、早めに病院受診を行うようにしている。また場合に依りて医師を交えたカンファレンスを行うようにしている。	※	現在医療連携体制加算の算定に向けて調整中であり、今後はターミナルケアにも取り組んでいきたい。そのためにも早期にユニットごとの夜勤者を配置したいと考えている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入退院時の説明、同意を確実に行う事はもとより、医療機関入院時にも、生活状況やADL等について詳細に、書面も作成し話し合うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 生活歴等を十分に把握し個々の状態に応じたケア、対応を実施している。また職員間での介護等の相談、助言、忠告は都度実施するようにしている。 個人情報の取り扱いについても日頃より十分に注意し採用時に誓約書も交わしている。		
			(外部評価) 利用者の誇りを損ねることのないよう、否定することなく、理解していることを示しながらゆっくり丁寧な声かけを心がけている。また、個人記録類は専用の部屋で適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の生活リズムに合わせ、出来る限り、自由な時間の入浴を行っている。また、買い物や外食の機会も多くとるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の業務の遂行より、入居者のペースを重視している。 (外部評価) ホームとしての一日のスケジュールはあるが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先するよう支援している。ただ、生活のリズムを崩さないため、また共同生活の維持のため、利用者の状況を見極めながら、ある程度ホームの決まりを優先させる場合もある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) モーニングケアの際、入居者と一緒に服を選び用意するようにしている。理容、美容についてはライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマ等が受けられるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員、入居者共に食事をし、会話を楽しみながらゆったりとした食事摂取の時間と、自主的な下膳を心掛けている。 (外部評価) 職員がワゴンで各テーブルを回り、下膳は利用者各自が行うように支援している。その際には「味はどう？」「全部食べていただいてありがとう」などと声をかけ、利用者は笑顔で受け答えをするなど、和やかな雰囲気がある。下ごしらえに時間を要した食材のことなどで話に花が咲いており、食事を楽しむ支援に力を入れていることがうかがえる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 週に一度は買い物日を設け、おやつ等、好みの物が手に入るように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表をもとに個別的にトイレ誘導を実施し、自主的に行かれる方は清潔保持に注意している。排泄の確認は、特にプライバシーに留意している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の曜日時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重し好きな時間に入浴が出来るようにしている。また毎朝定時にバイタルチェックを行い、入浴前にはもう一度体調確認するようにしている。 (外部評価) 入浴時間は自由であるが、職員の配置や利用者の希望などで慣習的になっている。寒いと嫌がる利用者にも、あの手この手で工夫しながら入浴を促している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限り部屋外で過ごすように促し、可能な限り戸外での活動、散歩なども実施し、また、自分のペースで生活が送れる様配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 日常の洗濯や掃除は共に行う様にし、菜園での農作業も出来る限り手伝ってもらっている。また、近隣住民（ボランティア）指導のもと、絵手紙、装飾小物制作のクラブ活動もある。 (外部評価) 役割は生きがいに繋がるとの考えのもと、利用者の状態に応じて可能な家事活動はお願いするようにしている。職員の手直しが必要と思われる作業でも「ありがとう」との言葉に、笑顔で応える利用者には、生活を楽しんでいることがうかがえる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、本人了承の上、基本的にお金の所持は小額としているが、買い物の際などは預かり金を本人に手渡し、支払ってもらうようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などを行うようにしている。また定期的にショッピングセンターでの買い物や食事に出かけている。 (外部評価) 利用者の生活のリズムを保つために外気浴を重視しており、庭先に出る、家庭菜園まで行く、隣接の施設の庭まで足を延ばすなど、戸外に出る機会が多くもてるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 市、学校行事には積極的に参加するようにしており、季節ごとのお花見やドライブなども実施している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロア内に公衆電話がありいつでも利用できるようにしている。また入居者からの要請があれば都度ダイヤルの介助も行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 近隣の家族だけでなく、ご近所さんや友人の訪問や、遠距離に住む親族からの電話や、手紙なども増えてきている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止はもとより、言葉の拘束廃止にも心掛けている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は出来るだけ鍵をかけず、夜間帯で職員の人数確保が難しい時のみ玄関の鍵をかけるようにしている。 (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯目的以外には鍵は掛けていない。職員の見守りで、利用者の安全に配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 入居者と共に生活、行動し安全に配慮しているが、夜間は2ユニットに夜勤者が1人しか配置できていない為、十分な安全確保とはなっていない。	※	各ユニットごとに夜勤者配置出来る様、現在調整中である。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁等の刃物類、薬剤などは鍵のかかる場所にて保管しているが、それ以外は自由に使用できるようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けられるようにしている。また必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けられるようにしている。また必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。カンファレンス時、個々の対処方法を看護師が具体的に指導するようにしている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回防火、避難訓練を実施している。平成20年3月26日、四国通信建設立会いのもと避難訓練、12月20日にも、畑寺地区消防団を交えて夜間想定での避難訓練と消防設備の点検確認を行った。 (外部評価) 契約している業者と連携しての避難訓練を年2回行っている。今後は運営推進会議に消防団にも参加してもらうなど、地域との協力体制の構築に取り組む予定である。また、近隣住民に対して、災害時の避難場所としてホームを位置づける話し合いも行っており、地域の福祉拠点としての活動に取り組んでいる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) グループホームで生活していく中でのリスク、自由に暮らしていただくための事故などのリスクは契約時、また状態変化があった時など十分に説明、相談するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々の記録は処遇記録に詳細に記入し、異常と判断した場合は申し送りノートに記入し職員全員が情報を共有できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理、投薬を行い、職員全員に副作用など説明するようにしている。また、特変があれば速やかに看護師医師に相談するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や運動はもとより、主治医と十分相談し、内服薬の正確な服用や副作用にも注意している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後、寝る前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い、異常があれば早期に歯科受診するようにしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節の食材や自家栽培の野菜を利用し、入居者と共に献立を作り、また、毎回の食事、水分摂取状況はチェックし記録するようにしている。 (外部評価) 運営法人の栄養士がカロリーや栄養バランスに配慮した献立をたてている。利用者の状態によっては、刻み食やミキサー食にしたり、量の調整などを行っている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入して見守っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対策マニュアルがあり、それによって手指消毒、施設内消毒等行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮で安全な食材の利用や加熱処理を確実に行うようにしており、食中毒防止のマニュアルもあり、随時施設内研修も実施している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先の植え込みだけでなくプランターには季節の花が咲くように心掛け育てている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスやキッチンの入り口にはカーテンを取り付けている。（手作りの暖簾をかけていたが、消防署の立ち入り検査の際、防煙品でないとの指摘あり取替え）また、フロア内には花壇から花を取ってきて生けたり、手作りの小物を壁やカウンターに飾りつけたりしている。 (外部評価) ホーム全体がゆったりとした設えになっている。共用空間には大きなテーブルを並べているが、圧迫感がなく、小上がりのある畳の間もある。天井まである大きな窓が、冬場の穏やかな日だまりを共用スペースに作っており、穏やかな空間がつけられている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 職員室は畳の部屋であり、自由に開放しているのでみんなの集いの場所となっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ダンスや位牌、仏壇だけでなく、犬や動物の縫いぐるみなど自由に持ち込んでもらっている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ポータブルトイレの掃除や窓の開閉はこまめに行い、居室ごとの換気扇の確認や温度調節は特に注意し行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアである。生活動線上の安全確保のため手すりが設置してあり、必要以上の物を置かないようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 入居者の視線に合わせて、自室やトイレの表示をしている。必要に応じビニールテープで床にトイレや居室への矢印も行っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 屋外に庭園、菜園があり、ガーデニングや野菜作りを皆で行っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	これまでの生活歴を把握し、コミュニケーション、傾聴を大切にしました、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。入居者の高齢化、重度化もあり身体介護の時間が多くなり、ゆったりと過ごす時間は減りつつあると思われる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者間の衝突しかけていた個性も時間と個々の関わりの中で中和されてきている所も見受けられる。皆表情が明るくなり、笑顔の時が多くなっている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	気の合うもの同士での交流外出の機会を作ったり、定期的にショッピングセンターでの買い物や食事に出かけているが外出時の安全確保との兼ね合いもあり、自由な外出とはなっていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	内科医師が2週間に1度、整形外科医師が1週間に1度往診してくれており、また看護職員も2名配置し、いつでも体調面など相談できるようにしている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。また、それぞれの行動には理由があることを認識し、介護にあたっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	入居者の生活時間帯であれば何時でも面会可能であり、また何でも話しやすい雰囲気作りを心掛けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域住民の来荘も自由であり、小中学生の訪問や気軽なボランティアも積極的に受け入れている。絵手紙の先生は馴染みの関係となっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を通してだけではなく、等施設では以前より地域住民、地元関係者とは、関わりを深めるように心掛けている。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	当事業所は職員の年齢層は広いが職員関係は良好であり、おしゃべりも、笑い声も多いと思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	認知症により判断しにくいですが、笑顔が多くなっているなどの表情の変化により
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族との話し合いの中では、出来るだけこの事業所で生活させてほしいとほとんどの家族が言っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

愛と笑顔、自然がいっぱい瑞鳳荘。癒しの環境の中、自由に暮らして頂く、それが私たちの願いです。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 瑞鳳荘

(ユニット名) ずいほうそう2階

記入者(管理者)

氏 名 渡部賢之

評価完了日 平成 20 年 12 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 基本理念をもとに、環境と同様癒される空間づくりを心掛けている。 (外部評価) 市町村合併により市域には多くのグループホームがあるが、ホーム開設時には唯一であったため、「玉川町」という枠組みにこだわる思いが管理者や職員から感じられる。理念に地域という文字は見当たらないが、ホームの運営には地域が意識されており、理念が有効に活用されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行い、その時間を利用し、情報の共有や職員の意識統一を図るようにしている。 (外部評価) 管理者の人柄もあり、職員とはよく話し合っていることが、利用者に対する思いを管理者と職員が異口同音に説明する様子からもうかがえる。ケアなどで判断に迷ったら理念に立ち返ることも実践しており、理念の共有化がなされている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 各種団体の訪問は積極的に受け入れ、夏祭りなども地域住民参加型で行っている。		瑞鳳荘便りも制作しているが定期的な制作発送とはなっていない為、年4回程度は制作発送したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 天候の良い時には散歩や買い物に出かけるようにしている。最近では近所の方の訪問、面会、農家の方からの野菜の差し入れも多くなってきた。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 小・中学校の運動会や集会、町民運動会、文化祭等、できる限り参加している。 (外部評価) ホームは山間部に立地しており付近に住居は少なく、日常的に近所付き合いをしているとは言えないが、利用者、職員とも地元の住民が多く、地域との精神的な繋がりを感じ取ることができる。小・中学校との交流、文化活動などのイベント的な付き合いでも、利用者がお客さん扱いになっておらず、普段着での付き合いが感じられる。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 市町村合併に伴い、玉川町も今治市となったができる限り旧玉川町の住民の優先的な入居を心掛けている。また災害などの際には高齢者や住民の緊急避難場所としての役割もあると考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価も職員全員で行い、その意義、必要性を説明し、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。また、自己評価を行う事により、自分たちの介護等を見直し、再認識する良い機会となっている。 (外部評価) 今回の自己評価には、管理者が記入して職員に確認を取る手法で取り組んでいる。職員も同じ考えであると言うが、職員自らが考えることと管理者が表現する内容には微妙なニュアンスの相違があると思われるため、職員の自己評価が正確に現れているとまでは言えない。	※	自己評価はボトムアップすることに意義があり、またユニット毎でも表現は異なることが一般的であると考えられるため、時間をかけて職員が各々の言葉で表現しながら自己評価に取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は実施しているが、内容、回数共に不十分である。	※	定期的な実施と内容の充実に取り組みたい。
			(外部評価) 会議の開催ということで形式に重きを置いており、議題にも苦慮しているため、利用者のケアの質の向上に直結する話題が少なく、地域との交流を深めるための会議になっているとまでは言えない。	※	運営推進会議の目的の一つは、利用者へのサービスの向上であるため、あまり形式にとらわれず肩の力を抜いて柔軟に取り組むことを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今治市地域福祉活動計画玉川地区座談会等各種会議にはできる限り出席するようにしている。		
			(外部評価) 管理者は福祉の専門職として地域でのキャリアが長く、行政との公私の繋がりも持っているため、双方を活用しながら利用者のサービスの質の向上に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業、成年後見人制度の内容や必要性など、職員にも説明している		権利擁護事業活用者も1名おり、成年後見人制度への移行などについても、市役所担当職員、中央包括支援センター職員と何回か話し合いを持っている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより、虐待に発展する恐れのある入居者間のトラブルについても早期発見、対処できる様にしている。また外泊等での帰荘の際は、心身の状態の変化に特に注意するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約は十分に時間を取り話し合うようにしている。また、個人情報利用についても説明し同意を得るようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設共に設置しており定期的に会議を実施している。また苦情処理委員会、窓口のことは契約時に説明している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 預かり金報告は毎月の利用料金請求時に書面にて行っており、同じ書面をもう一部用意しておき、ご家族(身元引受人)等の来荘時にもう1度説明し、署名捺印してもらっている。 (外部評価) 家族に金銭出納帳やホーム便りなどを定期的に送付し、利用者の日常を報告しているが、より詳細な情報を伝えるため、家族と直接話すことに力を入れている。多くの家族が近隣在住であるため来訪も頻繁にあり、話す機会も多いので、良好なコミュニケーションが取れている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設共に設置しており定期的に会議を実施している。また苦情処理委員会、窓口のことは契約時に説明している。運営推進会議構成員にも家族代表者2名おり、意見を聞く機会を多く持っている。 (外部評価) 運営法人と協力して第三者機関を設置し、家族が意見や苦情等を表出できるよう取り組んでいる。不満や苦情は傾聴することを基本としており、家族の来訪時には、管理者やケアマネジャーが、意見や苦情を切り出しやすい雰囲気づくりにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にケア会議を行い、その時間を利用し、情報の共有や職員の意識統一を図るようにし、また同時に職員の意見や提案も聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 7. 5時間の勤務時間の中、7種類の勤務体制をとり、利用者の生活時間帯に対応できるようにしている。	※	以前からの検討課題であった夜勤体制についてはユニットごとの夜勤者の配置に向けて調整中である。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 開所から現在までの移動、退職者数は8名であり、18年度以降は3名となっており、馴染みの関係が作られている。 (外部評価) 開設時からの職員も多く、異動や離職が少ないホームであるため、利用者との関係も良好で、落ち着いた生活を提供している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では、職員全員で考え実行していく事を基本にしており、管理者及び有資格者については各場面において、スーパーバイザーとなり、適確な判断、指導が出来るように努力している (外部評価) 職員は資格取得に積極的に取り組んでおり、向上心は高い。研修についてはホーム内や法人内での勉強会が中心で、外部研修も含めて受講機会が多いとは言えない。	※	資格の取得も積極的に実施させている。(19年度介護福祉士国家試験は3名が合格している。)また、介護職員の研修の参加を増やしていきたい。 利用者へのサービス向上のためにスキルアップしたいとの熱意が職員にあるので、内外の研修を受講できるような支援を期待したい。また、管理者のネットワークを活用して、ホーム内で専門的な研修を行うことも期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 施設外での研修にも積極的に参加させたいが、参加しやすい介護職員対象の研修があまりなく、施設内研修が主となっている。 (外部評価) 社協や管理者等のネットワークで福祉関連職種との交流などは行われているが、同業者とのネットワークが深まり、サービスの質の向上につながる取り組みがなされているとまでは言えない。	※	個々のホームの努力だけではネットワークの構築には限界があると思われるため、地域包括支援センターでの地域ケア会議等を通して、さらなるネットワークづくりが求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 施設外での研修にも積極的に参加させたいが、参加しやすい介護職員対象の研修があまりなく、施設内研修が主となっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 情報だけでなく、悩みやストレスも皆で共有し、個々の蓄積とならないように配慮すると共に会話や親睦の機会も定期的に作るようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。また、利用契約となる場合には、本人家族、の意向を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人及び家族、他事業所等から相談があった場合はまず面接、調査を行い、信頼関係の構築と適確なニーズの把握、分析に努めるよう努力している。また、利用契約となる場合には、本人家族、の意向を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。 (外部評価) ホームは地域を大切にしており、利用者だけでなく職員も町内出身者が多い。顔馴染みという関係が背景にある場合が多いので、利用者同士や職員と打ち解けるのに時間が掛からない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 職員は、利用者からの精神的な労いや優しい声かけを受け、ケアサービスは相互関係で成り立っていることを実感しており、仕事のやり甲斐を見出している。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際、及び訪問にて入居者の近況を報告、また介護計画の説明をし、ご家族からの意見、要望を確認し反映するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居者の生活時間帯であれば特に面会時間を決めず何時でも来荘、面会、外出泊できるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身元引受人の同意を得て、家族以外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し良い仲間意識が生まれるよう配慮している。また、孤立しがちな入居者や、入居者間でトラブルが生じそうになった場合には、誤解やしこりが生じないように速やかに職員が介入するようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居される場合でも関係者とは、現在の生活状況その経緯等、書面も含め十分説明するようにしている。また退居後も入居者、家族が気軽に相談できる関係づくりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 管理者や職員は、利用者との日常の会話から人生の背景を知ろうとする姿勢があり、入浴や散歩時など一対一になれる機会を活用し、積極的に聞き取っている。しかし、把握した内容は、専用の記入用紙がないため情報が埋もれてしまい、職員間で共有化されていない場合もある。	※	利用者の生活歴やちょっとした雑談などからの情報も貴重な財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものである。統一された記録用紙に書き足して蓄積し、全職員で共有することを望みたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、傾聴を大切に、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるように努力している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で出来る事を少しずつ増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケア会議を設けており、職員の意見交換、情報交換ができるようにしている。また、ケアチェック表を作成し家族と共にサービス計画書も確認できるようにまとめている。 (外部評価) 介護計画に基づき、職員全員で利用者全般のケアを行っている。計画は、計画作成担当者がまとめたものを、全員で話し合って作成している。	※	職員のスキルアップのためには、介護計画やモニタリングについて責任を分担することも必要と考えられるため、利用者担当制なども一つの方法として、職員主体のチーム運営を考慮することを望みたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 適時モニタリングを行い、再アセスメントし、必要時には、家族、医師を交えてのカンファレンスを実施し介護計画の変更も行うようにしている。 (外部評価) 介護計画は、実施についての評価票を基に検討している。また、急変等があった場合はその都度見直している。内容の継続や見直しについては、日々のモニタリングを基に検討しているが、評価票は介護計画の内容を大まかに区分しており、利用者個別の具体的な評価になっているとまでは言えない。	※	介護計画は細かく規定され、項目も多岐に渡っているため、日常の業務の中で全てを評価することは難しい面がある。目標の実施に優先順位を付けたり、類似の項目をまとめるなどの検討を望みたい。また、データとして活用するためにも、介護日誌を時間軸に沿った記録に移行するなどの取り組みも期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のフェイス記録には些細な事まで記録する様にし、また申し送りノートを作成し職員個人個人がチェックするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入居者の生活時間帯であれば特に面会時間を決めず何時でも来荘、面会、外出泊できるようにしている。 (外部評価) 運営法人の施設とイベントなどを共同で行うことができ、利用者の生活に彩りを添えるとともに、地域と一体化することも可能となっている。管理者は専任であるため、利用者と家族や地域と繋ぐための雑多ではあるが重要な事柄に丁寧に対応しており、細やかな配慮により利用者へのサービス向上に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 母体施設はもとより駐在所、市役所にも入居者名簿を提出し協力を要請している。火災の際の避難誘導等についても、地元消防団に出席してもらい年1回訓練を実施している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者の入退居時だけでなく普段から、他施設、支援センター、居宅介護支援事業所とは連絡を密に行うようにしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護事業活用者も1名おり、成年後見人制度への移行などについても、市役所担当職員、包括支援センター職員と何回か話し合いを持っている。また、虐待や困難事例に発展する恐れが見受けられた場合には出来るだけ早急に、市役所包括支援センターに報告、相談するようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察を受けるように心掛けている。 (外部評価) 地域で唯一の医療機関である民間の診療所が、地域のかかりつけ医として定着しているため、全ての利用者のかかりつけ医となっており、医療とは連携が密に取れる安心感がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 以前からの主治医がいる場合にはその病院を継続して受診し、症状に応じて心療内科、精神科の受診も行い指導を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員も2名配置し、また各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察を受けるように心掛けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入居者が入院した場合でも面会、様子観察を頻回に行うようにし、適時家族、医師との話し合いも行うようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 特変があれば都度家族に連絡し、早めに病院受診を行うようにしている。また場合に依りて医師を交えたカンファレンスを行うようにしている。 (外部評価) ホームでは、医療的行為は行わない、口腔からの栄養摂取が基本であるなどの基準を設けており、家族とは入居時に十分に話し合う時間を確保している。かかりつけ医とは、家族を交えてホームでの生活の可否について相談を行うシステムがあり、職員とも共有化が図られている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 特変があれば都度家族に連絡し、早めに病院受診を行うようにしている。また場合に依りて医師を交えたカンファレンスを行うようにしている。	※	現在医療連携体制加算の算定に向けて調整中であり、今後はターミナルケアにも取り組んでいきたい。そのためにも早期にユニットごとの夜勤者を配置したいと考えている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入退院時の説明、同意を確実に行う事はもとより、医療機関入院時にも、生活状況やADL等について詳細に、書面も作成し話し合うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 生活歴等を十分に把握し個々の状態に応じたケア、対応を実施している。また職員間での介護等の相談、助言、忠告は都度実施するようにしている。 個人情報の取り扱いについても日頃より十分に注意し採用時に誓約書も交わしている。		
			(外部評価) 利用者の誇りを損ねることのないよう、否定することなく、理解していることを示しながらゆっくり丁寧な声かけを心がけている。また、個人記録類は専用の部屋で適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の生活リズムに合わせ、出来る限り、自由な時間の入浴を行っている。また、買い物や外食の機会も多くとるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の業務の遂行より、入居者のペースを重視している。 (外部評価) ホームとしての一日のスケジュールはあるが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先するよう支援している。ただ、生活のリズムを崩さないため、また共同生活の維持のため、利用者の状況を見極めながら、ある程度ホームの決まりを優先させる場合もある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) モーニングケアの際、入居者と一緒に服を選び用意するようにしている。理容、美容についてはライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマ等が受けられるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員、入居者共に食事をし、会話を楽しみながらゆったりとした食事摂取の時間と、自主的な下膳を心掛けている。 (外部評価) 職員がワゴンで各テーブルを回り、下膳は利用者各自が行うように支援している。その際には「味はどう？」「全部食べていただいてありがとう」などと声をかけ、利用者は笑顔で受け答えをするなど、和やかな雰囲気がある。下ごしらえに時間を要した食材のことなどで話に花が咲いており、食事を楽しむ支援に力を入れていることがうかがえる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 週に一度は買い物日を設け、おやつ等、好みの物が手に入るように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表をもとに個別的にトイレ誘導を実施し、自主的に行かれる方は清潔保持に注意している。排泄の確認は、特にプライバシーに留意している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の曜日時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重し好きな時間に入浴が出来るようにしている。また毎朝定時にバイタルチェックを行い、入浴前にはもう一度体調確認するようにしている。 (外部評価) 入浴時間は自由であるが、職員の配置や利用者の希望などで慣習的になっている。寒いと嫌がる利用者にも、あの手この手で工夫しながら入浴を促している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限り部屋外で過ごすように促し、可能な限り戸外での活動、散歩なども実施し、また、自分のペースで生活が送れる様配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 日常の洗濯や掃除は共に行う様にし、菜園での農作業も出来る限り手伝ってもらっている。また、近隣住民（ボランティア）指導のもと、絵手紙、装飾小物制作のクラブ活動もある。 (外部評価) 役割は生きがいに繋がるとの考えのもと、利用者の状態に応じて可能な家事活動はお願いするようにしている。職員の手直しが必要と思われる作業でも「ありがとう」との言葉に、笑顔で応える利用者には、生活を楽しんでいることがうかがえる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、本人了承の上、基本的にお金の所持は小額としているが、買い物の際などは預かり金を本人に手渡し、支払ってもらうようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などを行うようにしている。また定期的にショッピングセンターでの買い物や食事に出かけている。 (外部評価) 利用者の生活のリズムを保つために外気浴を重視しており、庭先に出る、家庭菜園まで行く、隣接の施設の庭まで足を延ばすなど、戸外に出る機会が多くもてるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 市、学校行事には積極的に参加するようにしており、季節ごとのお花見やドライブなども実施している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロア内に公衆電話がありいつでも利用できるようにしている。また入居者からの要請があれば都度ダイヤルの介助も行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 近隣の家族だけでなく、ご近所さんや友人の訪問や、遠距離に住む親族からの電話や、手紙なども増えてきている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止はもとより、言葉の拘束廃止にも心掛けている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は出来るだけ鍵をかけず、夜間帯で職員の人数確保が難しい時のみ玄関の鍵をかけるようにしている。 (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯目的以外には鍵は掛けていない。職員の見守りで、利用者の安全に配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 入居者と共に生活、行動し安全に配慮しているが、夜間は2ユニットに夜勤者が1人しか配置できていない為、十分な安全確保とはなっていない。	※	各ユニットごとに夜勤者配置出来る様、現在調整中である。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁等の刃物類、薬剤などは鍵のかかる場所にて保管しているが、それ以外は自由に使用できるようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けられるようにしている。また必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けられるようにしている。また必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。カンファレンス時、個々の対処方法を看護師が具体的に指導するようにしている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回防火、避難訓練を実施している。平成20年3月26日、四国通信建設立会いのもと避難訓練、12月20日にも、畑寺地区消防団を交えて夜間想定での避難訓練と消防設備の点検確認を行った。 (外部評価) 契約している業者と連携しての避難訓練を年2回行っている。今後は運営推進会議に消防団にも参加してもらうなど、地域との協力体制の構築に取り組む予定である。また、近隣住民に対して、災害時の避難場所としてホームを位置づける話し合いも行っており、地域の福祉拠点としての活動に取り組んでいる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) グループホームで生活していく中でのリスク、自由に暮らしていただくための事故などのリスクは契約時、また状態変化があった時など十分に説明、相談するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々の記録は処遇記録に詳細に記入し、異常と判断した場合は申し送りノートに記入し職員全員が情報を共有できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理、投薬を行い、職員全員に副作用など説明するようにしている。また、特変があれば速やかに看護師医師に相談するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や運動はもとより、主治医と十分相談し、内服薬の正確な服用や副作用にも注意している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後、寝る前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い、異常があれば早期に歯科受診するようにしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節の食材や自家栽培の野菜を利用し、入居者と共に献立を作り、また、毎回の食事、水分摂取状況はチェックし記録するようにしている。 (外部評価) 運営法人の栄養士がカロリーや栄養バランスに配慮した献立をたてている。利用者の状態によっては、刻み食やミキサー食にしたり、量の調整などを行っている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入して見守っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対策マニュアルがあり、それによって手指消毒、施設内消毒等行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮で安全な食材の利用や加熱処理を確実に行うようにしており、食中毒防止のマニュアルもあり、随時施設内研修も実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先の植え込みだけでなくプランターには季節の花が咲くように心掛け育てている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスやキッチンの入り口にはカーテンを取り付けている。（手作りの暖簾をかけていたが、消防署の立ち入り検査の際、防煙品でないとの指摘あり取替え）また、フロア内には花壇から花を取ってきて生けたり、手作りの小物を壁やカウンターに飾りつけたりしている。 (外部評価) ホーム全体がゆったりとした設えになっている。共用空間には大きなテーブルを並べているが、圧迫感がなく、小上がりのある畳の間もある。天井まである大きな窓が、冬場の穏やかな日だまりを共用スペースに作っており、穏やかな空間がつけられている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 職員室は畳の部屋であり、自由に開放しているのでみんなの集いの場所となっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスや位牌、仏壇だけでなく、犬や動物の縫いぐるみなど自由に持ち込んでもらっている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ポータブルトイレの掃除や窓の開閉はこまめに行い、居室ごとの換気扇の確認や温度調節は特に注意し行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアである。生活動線上の安全確保のため手すりが設置しており、必要以上の物を置かないようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 入居者の視線に合わせて、自室やトイレの表示をしている。必要に応じビニールテープで床にトイレや居室への矢印も行っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 屋外に庭園、菜園があり、ガーデニングや野菜作りを皆で行っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	これまでの生活歴を把握し、コミュニケーション、傾聴を大切にしました、知りえた情報は職員全員で共有し個別ケアに活かせるようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。入居者の高齢化、重度化もあり身体介護の時間が多くなり、ゆったりと過ごす時間は減りつつあると思われる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者間の衝突しかけていた個性も時間も個々の関わりの中で中和されてきている所も見受けられる。皆表情が明るくなり、笑顔の時間が多くなっている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	気の合うもの同士での交流外出の機会を作ったり、定期的にショッピングセンターでの買い物や食事に出かけているが外出時の安全確保との兼ね合いもあり、自由な外出とはなっていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	内科医師が2週間に1度、整形外科医師が1週間に1度往診してくれており、また看護職員も2名配置し、いつでも体調面など相談できるようにしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々のコミュニケーションと様子観察を常に行い、日々の業務の遂行より入居者のペースを重視している。また、それぞれの行動には理由があることを認識し、介護にあたっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	入居者の生活時間帯であれば何時でも面会可能であり、また何でも話しやすい雰囲気作りを心掛けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域住民の来荘も自由であり、小中学生の訪問や気軽なボランティアも積極的に受け入れている。絵手紙の先生は馴染みの関係となっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を通してだけではなく、等施設では以前より地域住民、地元関係者とは、関わりを深めるように心掛けている。
98	職員は、生き生きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	当事業所は職員の年齢層は広いが職員関係は良好であり、おしゃべりも、笑い声も多いと思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	認知症により判断しにくいですが、笑顔が多くなっているなどの表情の変化により
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族との話し合いの中では、出来るだけこの事業所で生活させてほしいとほとんどの家族が言っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

愛と笑顔、自然がいっぱい瑞鳳荘。癒しの環境の中、自由に暮らして頂く、それが私たちの願いです。